

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	障害児通所支援事業所 きぼうっこ山本		
○保護者評価実施期間	令和 7 年 1 月 10 日		～ 令和 7 年 1 月 27 日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	7	(回答者数) 7
○従業者評価実施期間	令和 7 年 1 月 27 日		～ 令和 7 年 1 月 30 日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 2
○訪問先施設評価実施期間	令和 7 年 1 月 10 日		～ 令和 7 年 1 月 30 日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数) 4
○事業者向け自己評価表作成日	令和 7 年 1 月 31 日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	保護者の悩みなどに寄り添いながら支援をしていること	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者の悩みに寄り添い、共感をするようにしている ・学校の先生へ丁寧に保護者の不安などをお伝えするようにしている ・保護者と先生の橋渡しができるように気を配っている 	<ul style="list-style-type: none"> ・具体的にどのように支援していったらよいのかを更に、先生と一緒に考えながら、適切なアドバイスが出来るようにしていく
2	学校の先生の困りごとが解消できるように、適切な方法を先生と一緒に考えていること	<ul style="list-style-type: none"> ・学校の先生の立場や業務についてなども考えながら、先生と一緒に困りごとが解決できるように聞き取りを行い、一緒に考えていくようにしている ・児童の特性などを踏まえた関わり方をお伝えするようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・引き続き、先生の困りごとを聞き取った際には、子どもへの支援の方法と一緒に考え、児童に関わる全ての大人が、児童に対して同じ支援が出来るように共有の機会を設ける
3	子ども自身の困りごとを見つけて解決しようとしていること (療育でのソーシャルスキルトレーニングを元に、療育の中で困りごとを解決するための練習ができる)	<ul style="list-style-type: none"> ・先生の困りごと、保護者の困りごとを中心に考えがちなが、子ども自身の困りごとだということを意識するようにしている ・ソーシャルスキルを実施した際のデータをもとに、問題解決に努め、子どもへの関わり方などを先生にお伝えするようにしている 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身の困りごとを見つけたら、療育の中で学習できる機会を設け、その中で成功体験を沢山積み、自信を付けることができるような支援を行う

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	問題解決のための具体的な取り組みを保護者や学校に適切に伝える力が弱い	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者、学校に定期的に取り組み内容などを伝えきれていないのではないかと感じることもある 	<ul style="list-style-type: none"> ・定期的にデータを取り、改善したことが保護者、学校にお伝え出来るようにする
2	学校からの質問などに対して、適切に助言が出来ていないのではないかと心配	<ul style="list-style-type: none"> ・訪問先での生活ややり方、支援の方法などもあるため、そこを意識しすぎてしまうことがある ・学校側と事業所の時間が合わず、なかなか先生と時間を取って話しをすることが難しい 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談技術を身に付け、適切なやり取りが出来るように、技術や専門性を高めながら、学校との信頼関係を築いていく
3	保護者や大人からの聞き取りでの子どもの困りごとの拾い上げが主で、子ども自身に学校での困りごとを直接聞くことがあまり出来ていない	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者側から見た子ども自身の困りごと、保護者の困りごとを解決することに注力している 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども自身にも学校での実際の困りごとや悩んでいることなどを聞き、一緒に解決していけるようにする